



大原やすお

16 大原やすお後援会女性部  
すずすず 寿々の会と命名



かねてより検討中だった後援会女性部の名称が「すずすずの会」に決まりました。大原弥寿男の「寿」をとって鈴の音が広がるようにこの会も！と命名されました。

第1回となった寿々の会懇親会（4月16日開催）には130名もの女性にお集まりいただき、議員を囲んで歌に踊りに三味線にと芸能も披露され楽しく絆を深めることができました。

14 15 大原やすお後援会  
国会議事堂とスカイツリーの旅



古賀衆議院議員のお世話で国会見学。本会議場、執務室ほか議員会館で昼食も。屋形船から一周年ライトアップのスカイツリーを見ながらの夕食は大いに盛り上がりました。ほかに浅草寺、靖国神社、東京駅と盛りだくさん。もちろんスカイツリー展望台にも行きました。360度の展望は絶景でした。

見学を終え国会議事堂前で記念写真（前列中央は古賀篤衆議院議員）

おじゃましました



地域行事やスポーツ大会、勉強会や懇親会等に参加させていただき、ともに学び、考え、楽しみながらみな様とともに前進したいと考えております。

24 市議会傍聴

大原議員の一般質問を多くの後援会のみならず、興味深く、熱心に傍聴されました。傍聴は初めて。議会の様子も分かったし、大原議員も堂々としてかっこよかったです。来てよかったと参加の女性。次回はいかがですか？!

いぬさん

今回の参議院選挙は経済や憲法・TPP、消費税等私たちにとって重要な問題が争点でしたが、盛り上がりには欠けた国政選挙になりました。結果は自民党圧勝で国会でのねじれが解消されました。この時こそ、票を得るための大衆迎合の政策に惑わされることなく、孫や子どもたち次世代を見据えた政策を構築していただけるものと期待します。

過日の新聞では、英国の情報誌「モノクル」による「世界で最も住みやすい25都市ランキング」に福岡市がパリより上位の12位にランキングされました。コンパクトな都市機能や身近な自然、そしてアクセスの良さが評価されたようです。課題としては、自転車の利用しやすい街づくりが足りていないこと、大卒の人材の流出、それに加えて国際企業が少ないこととです。アジアのリーダー都市としての国際都市を目指す本市としても、もっと住みやすい都市を目指して、いろいろな課題を克服していかなければいけないと思っています。

国際リニアコライダーの立地が脊振山系に実現すれば、このことにもっと弾みがつくものと、誘致に向けた活動を引き続き行っていきます。

傍聴席の後援会のみなさま

おさそい 寿々の会バスハイイク

寿々の会では毎年バスハイイクを行っています。今年は10月下旬に梨狩りを予定しています。詳しくは事務所までお問い合わせください。

大原やすお事務所

お気軽にお立ち寄りください。  
福岡市早良区次郎丸4丁目9-37 (サンラク次郎丸)  
TEL 092(863)9567  
FAX 092(863)9568  
Mail info@oohara-yasuo.jp

転換期を迎える日本の農業



かつては天皇へ献上米を出した脇山地域

こんな風に成長しますように...



クレソンの生育を見る施設の方々



クレソン (和名: オランダガラシ)

ピリツとした辛みが人気の西洋野菜。食欲増進、胃もたれ解消に効果があり肉料理の付け合せによく使われる。

TPP交渉に入り農業は大きな転換期を迎えようとしています。農地は水量調整のダム役目を果たすほか環境保全等多面的に市民の生命や財産、暮らしを守っています。脊振の麓に広がる棚田の風景も農業者の高齢化とともに壊れていくのではと危惧されています。都市化が進む本市にとっても無関心ではいけない重要な課題でもあります。今後の農業の問題と対策について6月議会でも質問しましたが、将来を見据えて各地で色々な取り組みが行われています。早良区の心身障がい者施設ではクレソン(西洋野菜)栽培が始まりました。外食産業への出荷を目指し日々頑張っておられます。

# 視察報告会

セルン  
CERN福岡市議視察団(団長:大原やすお)  
H.25.7.25(木)市庁舎15階講堂

大原市議は、4月に議会を代表して(超党派4議員)スイスのジュネーブを訪れCERN(欧州原子核研究機構)を視察、地元の行政関係者と意見交換などもしました。CERNは、ジュネーブ州の地下100m、外周27kmのトンネル内に設置された円形大型加速器を備えた現在最も高度な素粒子実験施設のひとつです。九州に誘致運動を展開している「リニアコライダー」は、この機能をさらに上回る直線30kmの未来型加速器です。

同議員ら視察団は7月25日、市庁舎15階の講堂で視察報告会を行いました。平日の午後7時からにもかかわらず、多くの方にご参加いただき、熱のこもった発表と質問で関心の深さがうかがわれました。

## CERNって何?

◎ヨーロッパの20か国が中心となって運営されている世界最大規模の素粒子物理学の研究所。昨年ビッグニュースとなった物理学の分野で長年の謎だったヒッグス粒子が発見された。その過程で開発されたものにインフルエンザの特効薬タミフルや今では一般的なタッチパネル、がんの早期診断装置PET等生活に密着したものも数多い。  
\*ヒッグス粒子:あらゆる物質の質量を生み出す機能を持つとされる。依然謎が残るが宇宙を解明する上で歴史的な鍵を握る。

## 日本はどう関わっているの?

- ◎ドイツ、フランス、スイス等加盟国が20か国。日本はオブザーバーとして参加、加速器建設に138.5億円の協力。
- ◎国際共同実験施設は大きな施設4か所のほか小さなものも2か所ある。日本からも高エネ研、各大学等から100名程の研究者が実験に参加している。
- ◎日本の高度な技術は超電導ケーブル、超電導四極電磁石、特殊ステンレス等々、実験装置建設には大きく貢献している。

第1部では九州大学理学研究院准教授東城順治先生に「CERNの目的と成果、ILCの意義について」と題して基礎講演をいただき第2部では視察団長大原議員が



市庁舎講堂で視察報告をする大原議員

「自治体とCERNの関係に見るILC支援の課題」を報告しました。なんだか難しそうと言いつつも丁寧な説明に物理学の世界に入り込んだ参加のみなさん。時間いっぱい質疑応答が行われました。



地下100mにある素粒子検出を計測する装置を視察中の一行



加速器の構造を説明する近藤博士



ジュネーブ州安全省国際機関担当者との意見交換

## 報告会での質疑応答

- Q1** 次世代の子ども達を学問のおもしろさに引き込むいい機会だと思う。誘致のポイントにしては?
- A** 同感です。CERNでも子どもたちの科学的興味を引くような工夫がされていた。施設を学習の場として提供していきたい。
- Q2** 立地の場合革命的なことだ。今どういう動きがあり、どう展開されるのか?
- A** 研究者は科学的見地からILCの国内候補地を一本化する。東北は10年以上前から誘致活動をしていた。九州は出遅れたが「ILC-アジア九州推進会議」を中心に国等に活発に働きかけを行っている。今誘致への地元の機運を高めたい。
- Q3** 国際平和に貢献できると思うが…!
- A** 冷戦時代でも国、文化、背景が違う人が一緒に共同研究を行ってきた。平和的な国際研究所である。
- Q4** 放射性廃棄物を加速器の技術で半減できると聞いたが…?
- A** 別の原子核に変化させる研究が進んでいる。最先端の研究をしているので将来可能性がある。ILCは危ないのではとの心配もあるがILCの研究は電子と陽電子を使うため、放射性を生み出す確率は非常に少ない。いかに安全に研究できるか研究している。
- Q5** 背振山系の自然を守るか開発か地域の意見を聞くべきでは?研究施設はどのくらい長期的なのか?
- A** 自然を守り地域の意見を聞きながら建設を進めていく。建設に7~10年、実験20年、次の計画に発展したとして長くて50年くらい。

特集

# 国際リニアコライダー

~ILC(国際リニアコライダー)を九州・背振地区に~



## 大原議員6月議会で質問

**質問** 昨年6月議会でILC背振山系誘致に関して質問してから1年が経過しました。今年夏にも日本の候補地であり、九州の背振山系と東北の北上山系が一本化されるとのことで、経済界を初め各団体の誘致に向けた活動が熱を帯びてきています。市民にも周知されつつある巨大国際プロジェクトのILCの誘致が実現すれば教育的にも、経済的にも、また国際化など最も恩恵を蒙られるのは福岡市であります。本市はもっと積極的に誘致活動をすべきではないか。

**答弁** ILCの誘致が実現すれば本市の進める国際都市実現に弾みがつくし、教育や経済効果も大いに期待できる。背振山系での計画実現には本市の役割は大きいと考えている。5月に庁内プロジェクトチームを結成しており、産学官で立ち上げた「ILCアジア九州推進会議」の一員でもある本市もしっかりとその一翼を担ってまいります。

## ILC(国際リニアコライダー)

国際宇宙ステーション、国際核融合実験炉とともに21世紀の世界三大科学プロジェクトのひとつ。地下100m、全長30kmのトンネル内に直線型加速器を備える人類史上最大の実験装置となる。電子と陽電子を光速近くまで加速。衝突させることで宇宙誕生直後の状況を再現し宇宙誕生の謎を解明していく。「原子」を地球の大きさに置き換えると「電子」と「陽電子」は野球のボールの大きさでしかありません。その二つを加速器で衝突させるというのだからいかに精密な実験装置かがうかがえます。そしてその実験過程で生じることがらにはCERNでインターネットや重粒子線がん治療が開発されたように、ILCからも放射線を消滅させる機器や新たなクリーンエネルギーが開発されたり、夢にも思なかったことが発見されたり創りだされたりすると思うと夢は膨らむばかりです。

## ILCの立地が実現した場合の福岡市への効果

- ◎1万人を超える世界のトップクラスの技術者・研究者とその家族が海外から集結することによる国際学研都市の形成
- ◎先端企業の進出による産業の発展と雇用の創出
- ◎研究者・技術者などの高度人材育成
- ◎こどもから大人まで幅広い層の科学理解増進・国際感覚醸成
- ◎青少年の科学への好奇心を高め、次世代の科学者や技術者の育成
- ◎新たな観光資源として交流人口増加
- ◎世界的な認知度向上

## ILC誘致はオールジャパンで!

研究者の間では今年7月~8月の間に日本での候補地を1本化すると言われています。私達は九州背振山系への誘致に力を注いでまいりました。もしこの絆通信がお手元に届くとき、日本の候補地が北上山地に決定されていたとしても、ILCは全世界に色々な恩恵をもたらす人類の発展と平和になくしてはならないものです。それを日本で行えることは日本にとって夢でも誇りでもあります。私たちは今までと同じように日本への誘致に力を入れて活動していきたいと考えます。